

伊丹ルーテル教会主の復活節第3礼拝

2021年4月18日

前奏：

招きのことば：詩編4編3-6, 9節

人の子らよ いつまでわたしの名誉を辱めにさらすのか むなしさを愛し、偽りを求めるのか。
主の慈しみに生きる人を主は見分けて 呼び求める声を聞いてくださると知れ。
おののいて罪を離れよ。横たわるときも自らの心と語り そして沈黙に入れ。
ふさわしい献げ物をささげて、主に依り頼め。平和のうちに身を横たえ、わたしは眠ります。
主よ、あなただけが、確かに わたしをここに住まわせてくださるのです。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたが
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。

イエス様は少しのことでうろたえる私たちの罪を赦すために十字架にかかって死んでくださって、私たちに新しい命を与えるために3日目によみがえってくださいました。今朝も私たちはあなたのみ言葉にあずかるためにここにおります。

新型コロナ・ウィルスの感染が拡大し身近に迫っています。緊張感を保ち、ふるまいに注意しながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、平安に、またいのちあふれて歩む一日一日としてください。教会にどう私たち一同を守り支えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：第Iヨハネ3章1-7節

御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほど、事実また、そのとおりです。世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。愛する者たち、わたしたちは、今既に神の子ですが、自分がどのようになるかは、まだ示されていません。しかし、御子が現れるとき、御子に似た者となるということを知っています。なぜなら、そのとき御子をありのままに見るからです。御子にこの望みをかけている人は皆、御子が清いように、自分を清めます。罪を犯す者は皆、法にも背くのです。罪とは、法に背くことです。あなたがたも知っているように、御子は罪を除くために現れました。御子には罪がありません。御子の内にいつもいる人は皆、罪を犯しません。罪を犯す者は皆、御子を見たこともなく、知ってもいません。子たちよ、だれにも惑わされないようにしなさい。義を行う者は、御子と同じように、正しい人です。

福音書朗読：ルカによる福音書24章36b-48節

「あなたがたに平和があるように」と言われた。彼らは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った。そこで、イエスは言われた。「なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか。わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ。触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えるとおり、わたしにはそれがある。」こう言って、イエスは手と足をお見せになった。彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物があるか」と言われた。そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。イエスは言われた。「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。」そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。

讚美歌 154

- 1 地よ、声たかく 告げ知らせよ きょうイエス君(きみ)は よみがえれり
いのちの君は あまつ園に われらを召して 入れたまえり
- 2 **とこよのひかり てりかがやく みくらにいます 君を仰がん**
あめより漏るる かちうたにぞ 地なるわれらも 声をあわせん
- 3 あめよ、よろこべ つちよ、うたえ ものみなともに ほめたたえよ
イエス君きょうぞ よみがえられる ああかぎりなき さかえの日よ

アーメン

説教：「罪の赦しを得させる悔い改め」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様が死人の中からよみがえってくださったイースターの季節です。毎年、礼拝でイースターのご挨拶をしています。「ハレルヤ、イエス・キリストはよみがえられました」と言いますから、皆さんは、「ハレルヤ、イエス・キリストはたしかによみがえられました」とおっしゃってください。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました。

イエス様はよみがえられました。この言葉をもって私たちも何度も重ねて告白していきましよう。そうだな、と信じて、また全く忘れてしまう現実があるからです。悲しいことですが事実ですね。

今日お読みしたところで、よみがえったイエス様がお弟子たちの集まっているところにご自分から入っていかけてくださって真ん中にたつて「平安があるように」と言われています。それでも弟子たちは茫然となっています。その目で見て、目の前で現実になっている出来事をどうしても受け入れることができませんでした。恐れ、おののき、疑い、そしてうろたえました。

誰でも突然によみがえったイエス様に出会ったら、すぐにこのように不安になることは無理もない、と思います。でも、文脈を見ると少し不思議です。このときお弟子たちはイエス様がよみがえられたようだ、という内容のお話をしていたからです。お話をしているところにイエス様があらわれたのに、こんなにおののいています。

エルサレムでは弟子たちはその日を振り返って、イエス様は今朝、本当によみがえったようだ、現にペテロも出会ったといっている、というお話をしていました。そこに旅に出たはずの二人

の弟子たちが、遅くに戻ってきて、自分たちはよみがえったイエス様にさきほど出会ったと、そのいきさつを話しました。期待をかけていたイエス様が十字架にかけられてしまったので、絶望してふたりでエルサレムを去る途上で、道すがら近づいて話しかけてくれた旅人と一緒に夕食を食べてようとしているとき、食卓でパンをさいてくださったその人がよみがえったイエス様だと気づいた、といういきさつです。弟子たちはそこで、不思議なことだけど、やはりイエス様はよみがえってくださったのだ、と話していたのです。

弟子たちはとっさに亡霊を見ている、と思いました。イエス様はよみがえったという話しをしていましたが、そのイエス様が現れてくださったとき反射的に本音の反応が出てきたのでしよう。うろたえました。弟子たちは今ここでこのお話に接している私たちと同じような感覚でいたことがわかります。

イエス様はまず弟子たちがどうなったかをご覧になって、弟子たちに知らせています。あなたがたはうろたえています。あなたがたは心に疑いを起こしています。そして、イエス様はまさしくわたしである、ということを確認してもらうために、ご自分の手足を見せ、触ってよく見てごらんください、と差し出しておられます。まだ不思議がっている弟子たちにイエス様は食べ物求められました。弟子のもってきた一切れの焼き魚を弟子の目の前でお食べになりました。イエス様はあの二人の弟子たちとパンを食べました。別のところではガリラヤの湖の浜辺で漁に出ていたお弟子たちを岸辺から呼びかけ、魚を焼いて待っていてくださいました。イエス様は霊としてよみがえったのではなく、体を伴って、文字通りよみがえってくださったことを自らお示しになりました。

それからイエス様は、弟子たちに3つのことをなさいました。思い起こさせ、解き明かし、指し示してくださったのです。まずこれまで語っていたことを思い起こさせてくださいました。旧約聖書の約束は必ずすべて実現する、と力強くお語りくださいました。そして弟子たちの心の目を開いて聖書を悟ることができるようにして、聖書に救い主、メシアは死んで、三日目によみがえることと、それが罪を赦すためであったことがすべての国の人に宣べ伝えられると解き明かしてくださったのです。さらに、これからのことを指し示してくださいました。あなたがたは今いるエルサレムからはじめて、この実現の過程の証人になるといわれました。

弟子たちの心がわかります。また、イエス様が弟子たちにご自分がたしかによみがえってくださったことを明らかに示して、これからの道を指し示してくださった力強さとやさしさがわかります。

神様がイエス様によって私のすべての罪を赦して新しい命に生かしてくださることは、たいへん素晴らしいことです。しかしそれがすばらしすぎて、実際に生身のわたしが赦されて新しいいのちに生きるということは深いところではまっすぐに受け止めていないかもしれません。そ

のままを受け止めて信じて歩んでいないかもしれません。そんな私たちに神様はイエス様を通して働いてくださるというのが今日のメッセージです。

私たちはイエス様の赦しといのちの恵みの贈り物を何度も聞いています。神様は今ここにおられるみなさんが、ほんとうにその赦しといのちを与えてくださることを信じて、安心して、使命に生きてほしいとねがっておられます。

けれども私たちは反射的に思うのです。神様はこわい、慣れていない、信じて歩む新しい生活は見通しがわからず心細く、人から理解されるか、縛られたり押し付けられたりしないか、自分のようなものに居場所はあるかなど、複雑な思いがでできます。恵みと平安を与えてくださる神様への信頼よりも、おそれと不安が出てきます。

私たちは罪びとなので神様は基本的にこわいです。死を恐れるのはひとりで神様の正しい裁きを受けることを予想しているからかもしれません。また、神様から離れて生きてきたことが長いので神様と言われてもピンとこないし、慣れていないという気持ちもあり得ます。自分だけではなく、自分のまわりで生きている人々も、神様のことは全く知らないという人も多いので、この先が心細いとも思います。イエス様を信じるということは、中途半端なことではなく自分のすべてがかかわることなので、この先の人生の見通しが見えないのでよくわからない。イエス様によって罪を赦して新しいいのちを与えてくださるという聖書に示されていることはわかるけれど、そのような私への神様の約束に信頼することと私の実生活の問題や課題とどう関係するのかわからない。いいお話かもしれないけどとりあえずは自分の生活をしっかりしておきたいし、友達や家族がどういふかも心配。人の中で浮いてしまわないか、変に思われないか、自分でもまだよくわかってないのに質問されたらどうこたえようかという不安も出てきます。これまでの生活になかったような教会のグループに入っていくことの不安もあるでしょう。受け入れられるかな、わたしに居場所はあるかな、こわい人、苦手な人はいないかな、などの心配も出てくるかもしれません。教会にのめりこんだらいろいろ縛られないかな、押し付けられないかな、グループの人々の前ではしんどいときでもいつも元気にふるまわないといけないうのかな、など、言い始めたらきりがありません。

イエス様はそのような私たちに、ご自分を示して、私たちのこれまで、今、これからのすべてにかかわってくださいます。私たちのこれまでの心配、過ぎ越し苦勞、これからの心配、取り越し苦勞を受け止めてくださったうえで、聖書のみ言葉をイエス様が私たちにわかるように示してください、これから神様のみわざの証人として歩むことをお語りくださいます。

罪の赦して、神様に甘えた人生への誘いではないか、という気持ちが起こることもあります。もっと自分に厳しく生きるべきではないか。でも神様に赦されるということは、人に迷惑をかけたのに、神様に反逆してきたのに、それを悪いことをしたと思わなくなって、これまでの在り方に無責任に生きるということではありません。そこに本当の悔い改めが必要です。そして、

これから同じ過ちを繰り返さない真摯さと、愛をもって真実に生きていく覚悟が必要です。甘えの余地はありません。

ただし、私たちの過去の悔い改めやこれからの覚悟はいつまでも不完全です。神様はイエス様によって自分のしてきたことの重大さを十分にわきまえることができないで神様の前での悔い改めがいつも中途半端である私たちをそのままで赦すために、完全なイエス様が代わりに償ってくださいました。私たちに代わって神様の裁きを受けてくださって死んでくださったのです。そして、これからの新しい生き方の覚悟の足りない私たちをご存じで、復活のイエス様と出会わせてくださいます。今は聖書のみ言葉の説教において、聖霊はイエス様をあなたと出会うようにして下さっています。洗礼にあずかり、聖餐をいただくとき、イエス様と出会わせていただきます。罪の赦しを得させる悔い改めが、十字架とよみがえりのご自分をお与えくださるイエス様のお名前によってエルサレムから始めて全世界の人々に宣べ伝えられていく神様のみわざを、あなたは証人として生涯、見ていくのです。

うろたえる弟子たちに、イエス様はご自分を与え、丁寧に解説し、生涯の召しを与えてくださいました。弟子たちはそのイエス様によって全く赦されました。そして不完全ですが、神様に導かれて悔い改めて、覚悟をもって生涯歩んでいきました。時としてうろたえ、言い訳とあきらめに流される変わりやすく頼りない自分ではなく、いつも愛と真実をもって出会い、教え、神様と人々にお仕えする主体的で生きがいのある人生の一步一步を共に歩んで導いてくださいます。あなたにも今日、復活のイエス様があなたの罪のためにお受けになった十字架の傷をお示しになって、確かに信仰を与え、確かにこの一週の平安と生きがいの歩みへと送り出してください。

祈りましょう。「愛する天のお父様、イースターの恵みを感謝いたします。よみがえってくださったイエス様が、うろたえる私たちの真ん中に来て、思い起こさせ、ご自分を示し、指し示してくださることを感謝いたします。今週も罪を赦して新しい命をお与えくださる主イエス様のみわざの証人として歩みます。主イエスの名前で祈ります。アーメン」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました。

讚美歌 151 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 よろずの民、よろこべや 主イエス陰府(よみ)に勝ちませば
死のちから はや失せ果て 人のいのち 限りなし。

2 主はさかえの 御座にまし み使いたち 妙(たえ)に歌(うと)う
「主イエス 死に かちたまえば、人はとわに生くべし」と。

3 明日を待たぬ いのちもて 悩みたえぬ 世に住めば
耐え難く 悲しかるを 今は死なぬ 身となりぬ。

4 涙の谷、雨はれて、御国の道 のどかなり。
いざ うたえ、しらべ 高く、主の み栄え 世のさちを。 アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ 父の愛よ 御霊の力よ ああみ栄えよ。アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。アーメン

後奏